

医療環境制御センター 医療安全管理部

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	森岡 浩一	令和3年4月ー
ー	その他の職員	

2. 研究概要

研究概要

医療安全管理に関する研修はおおむね年2回以上受講することが医療法で定められており、2016年の医療法改正では特定機能病院の承認要件見直しとして院内研修の充実が求められています。院内研修が医療安全管理に重要とされていますが、研修が実際医療安全確保に役立っているとするエビデンスは欠如したままです。院内研修が実際に医療安全行動に生かされるかを、科学研究費補助金の基盤研究（C）を獲得して研究しています。医療安全管理には医師からの報告が欠かせませんが、医師からの報告を増加させて医療安全に対する認識を持たせることを目標に対策を講じており、その有効性に関して研究しています。医療安全管理のためはマニュアルや作業手順の遵守が必要ですが、それらを作成して遵守を医療者に促しても医療事故が絶えることはありません。チームワークやコミュニケーション、リーダーシップなどのノンテクニカルスキルが医療事故防止に重要です。米国医療研究品質局が作成したTeamSTEPPS（Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety、チームとしてのより良いパフォーマンスと患者安全を高めるためのツールと戦略）を院内研修に導入し、医療事故発生件数の抑制効果について研究します。

キーワード

医療安全、院内研修、ノンテクニカルスキル、インシデント・アクシデント報告システム、リスク行動

業績年の進捗状況

特色等

本学の理念との関係

本学医学部の理念である「愛と医術で人と社会を健やかに」は、まさに医療安全管理部が目指す目標そのものであります。医療安全管理の根底には「人は間違える」存在であるとの考えがあり、今まで医療事故防止のために人ではなくシステムを改善することに主眼が置かれてきました。しかし、医療の最小単位が医療者という人である限り医療事故が絶えることはありません。よって、人が間違えることを最小限にとどめることが重要になるわけですが、そのためには本学医学部の理念にある「愛と医術」が必要です。患者への愛、ともに働く医療者への愛は、円滑なコミュニケーションや細部への心配りなどチーム医療による事故防止に最も重要な条件であり、そして医術の修練と進歩が医療安全に欠かせないことは言うまでもありません。「愛」は技術ではなく、医療者のノンテクニカルスキルの根底にあるものであります。しかし、医療者の「愛」に期待するだけでは医療に必要なノンテクニカルスキルの修得は困難です。院内研修を通じてノンテクニカルスキルに関する研修を行い、その有用性を評価して、今後の研修につなげていくことが重要です。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2018～2023年分	2024年分	2018～2023年分	2024年分
和文原著論文		2	1	—	—
	ファーストオーサー	0	0	0(0)	0(0)
英文論文	コレスポンディングオーサー	0	0	0(0)	0(0)
	その他	1	0	0.26(0.26)	0(0)
	合計	1	0	0.26(0.26)	0(0)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

24001

山口愛子、小久保安朗、藤田和恵、清川真美、井上麻里子、辻美佐江、森岡浩一：新規採用した転倒転落アセスメントスコアシートの転棟予測精度と転棟に影響を及ぼす因子の解析、医療の質・安全学会誌、19(4)、411-416、202410

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

業績一覧

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

24002

森岡浩一、木戸屋英次、藤田和恵、清川真美、井上麻里子、高田健次、今村好章、嶋崎さおり、川岸拓弥、古市和美：画像診断報告書確認不足に対する医療安全の取り組み，第19回医療の質・安全学会，20241130

d. 一般講演（ポスター）

24003

清川真美、藤田和恵、山口愛子、栗原健、平井昂宏、長尾能雅、森岡浩一：問題解決「入院患者内服と薬に係る患者誤認の撲滅に向けて」，第19回医療の質・安全学会，20241129

24004

井上麻里子、嶋崎さおり、清川真美、辻美佐江、三谷大夢、川岸拓弥、山口愛子、藤田和恵、五十嵐行江、森岡浩一：インフォームド・コンセント時の同席率向上の取り組み，第19回医療の質・安全学会，20241130

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

24005

清川真美：当院における患者誤認インシデントの現状と課題，福井、医療の質・安全を考える会，20240403

24006

井上麻里子：インシデントから学ぶインフォームド・コンセント時の同席率向上の取り組み，福井、医療の質・安全を考える会，20250314

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研究費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
----	---------	-------	------	------	------	---------

区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
----	------	-----	------	------	------	---------

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
----	-----	-----	------	------	------

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
----	-----	-----	------	------	------

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本臨床外科学会	一般会員	森岡 浩一
日本心臓血管外科学会	一般会員	森岡 浩一
日本感染症学会	一般会員	森岡 浩一
環境感染学会	一般会員	森岡 浩一
医療の質・安全学会	一般会員	森岡 浩一
日本医療安全学会	一般会員	森岡 浩一
日本循環器学会	一般会員	森岡 浩一
日本胸部外科学会	一般会員	森岡 浩一
日本外科学会	一般会員	森岡 浩一
日本血管外科学会	一般会員	森岡 浩一

(C) 座長

国内学会 （全国レベル）	学会名	氏名
-----------------	-----	----

業績一覧

招待・特別講演等	福井、医療の質・安全を考える会	森岡 浩一
招待・特別講演等	福井、医療の質・安全を考える会	森岡 浩一
招待・特別講演等	福井、医療の質・安全を考える会	森岡 浩一
招待・特別講演等	福井、医療の質・安全を考える会	森岡 浩一

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員の別	氏名	査読編数
----------	-------	--------------	----	------

(E) その他

6. 産業・社会への貢献

(A) 国・地域等への貢献

(1) 審議会・委員会・公益法人・会社等への参加状況

区分	機関の名称等	委員会の名称等・役割	氏名	期間
----	--------	------------	----	----

(2) 社会人等への貢献及び学校等との連携・協力による活動

区分	活動名・活動内容	主催者・対象者等	氏名
----	----------	----------	----

(B) 国際貢献

国際協力事業

活動名・活動内容	氏名	相手方機関名	役割	期間	活動国名
----------	----	--------	----	----	------

(C) その他業績

(D) 特記事項